

## 《速報》滑川・青柳家長屋門(旧滑川郵便局舎)の解体

明治・大正・昭和  
天井裏から大量の郵便資料

青柳家は江戸時代から続く旧家で、家業の酒造業・運送業・金融業等を営むとともに、明治時代には香取郡西部の中核をなす滑川郵便局長の創業家として知られています。成田空港B滑走路の延伸に伴う騒音区域の拡大により、敷地内の建物を全て解体することになり、資料等確認調査を実施した。青柳家からはこれまでに5, 186点の資料が寄贈され、郵便事業に関わる新たな資料が発見されました。



資料が発見された場所

上…かつての滑川郵便局(撮影年月日不明)。  
左…解体前の長屋門

## ◆場所—JR滑河駅より南東1・2 km

に滑河観音の名で親しまれる龍正院の50 m手前にある。敷地内には長屋門・母屋(無住)・納屋などがあり、西端に元特定郵便局舎が残っていた。

◆調査経過—解体工事は令和5年10月11日、長屋門の解体は10月18日、13日から長屋門各所の現況撮影、長屋門概略図作成、元従業員から業務内容・部屋割り等の聞き取りを行う。18日に棟札を確認中に天井裏から大量の文書類を発見。解体日の延長依頼をした結果、11月5日まで可能となった。資料館業務と並行し、懐中電灯を照らしながらの重作業であった。

◆資料—取り上げた資料は土囊袋で170袋、木箱2箱、種々の文書を裏貼りした3枚の襖である。制服・帽子・秤・集配袋などの業務用品や看板はなかった。天井部奥で見つかった木箱は、裏面に墨で成田局□と書かれ、

上：天井裏入口付近の資料発見状況  
下：木箱の発見状況(矢印)

木製の集配箱であろうか。箱内には郵便局印4本、各種郵便物台帳類、郵便物取集證印帳、配達證、郵便到着帳、郵便差出帳、記念ポストカード等があった。年ごとに紐で縛られていたものもあり、滑川郵便局で取扱った業務の種類や実態等が残されていた可能性が強い。郵便局の業務内容を推定できる資料に、簡易保険訂正書、特設電話番号簿、電報紙片、預金通帳、切手・印紙がある。2頁の②と③は、昭和59年寄贈資料の郵便事業に関わる資料である。

滑川郵便局に関する文献は『全国郵便局沿革録・明治編』『郵便配送局名便覧』『官報』『香取郡誌』等があり、郵便局取扱所開局日、貯金預所・電信電話通話・為替事務等の開設日、配送区域が記され、滑川郵便局の開局日は明治5年7月1日とある。香取・印旛・埴生管内で最も古い郵便局の一つである。